
活動部

左右

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

活動部

【Nコード】

N0083U

【作者名】

左右

【あらすじ】

4月から高校に入学した俺「城島 綾人」は、入部する部活に悩んでいた。この学校は部活に強制的に入らなければならない。帰宅部が存在しない。

そんな時、掲示板でおもしろいポスターを見つけた

「活動部」？活動内容は不特定、とにかく遊んで楽しめればそれでいいじゃん。スポーツしたり、ゲームしたり、絵描いたり、いろいろ作ったり、とにかく何かやってる部活。そんな活動部に只今入部

してくれる新入生募集中！。あなたも活動部で楽しみませんか？

部活探し

＼1－A ホームルーム
HR＼

城島 綾人^{じょうしま あやと}こと俺は、眠気と戦いながら先生の話の聞いていた

「部活入部締め切りは今日までだからな、今日中に入部届け持って来いよ」

やばい、そういえばまだ入部届け出してなかった

「城島、入部届け出した？」

「まだ出してねえ。高也は？」

「俺もだよ」

話しかけてきたのは親友の「高也^{たかや} 翔^{しょう}」小学校からずっといっしょでめっちゃ仲良し

とにかく今日中に部活を決めなければならない

「放課後適当に部活見回ろうぜ」

「そうだな、わかった」

＼放課後＼

先生に部活のことを聞くと、4月の最初の方は掲示板に部活動のポスターが貼ってあるらしいから、俺達は掲示板へ向かった

「「掲示板でか」」

思わずハモってしまうほど大きさの掲示板だそこにあった

そしてその掲示板にいくつものポスターが貼ってある

そのポスターのほとんどが「○○部」の紹介のポスターだった

野球部、サッカー部、バレー部、テニス部、バスケット部、卓球部、剣道部、柔道部、新体操部、ソフトテニス部、陸上部、ハンドボール部、ダンス部、水泳部、バドミントン部、弓道部放送部、新聞部、美術部、将棋部、パソコン部、科学部、茶道部、演劇部、書道部、料理部、軽音部、合唱部、ボランティア部、活動部

中学とは違ってさまざま部活がある

「城島、部活どうする？」

その中に聞いたことない、気になる部活があった

「城島くん、聞いてますかー？」

「・・・高也、活動部って何？」

「活動部？聞いたことない」

俺達は「活動部」のポスターに注目した

「活動部」？活動内容は不特定、とにかく遊んで楽しめればそれでいいじゃん。スポーツしたり、ゲームしたり、絵描いたり、いろいろ作ったり、とにかく何かやってる部活。そんな活動部に只今入部してくれる新入生募集中！。あなたも活動部で楽しみませんか？

「・・・??」

「まずこれって部活？」

「・・・気になる

「高也、お前は何部入る？」

「まだ決まってない」

「折角だし活動部っての見に行こうぜ」

「たしかにおもしろそう。いこいこ」

俺達は「活動部」を見に行くことにした

「・・・待てよ、活動場所が書いてない・・・」

部活探し（後書き）

感想、意見お願いします

科学部？

「活動部」のポスターには活動場所が書いてなかった

他の部活、例えば「野球部」は晴れ↓グラウンド、雨↓3－Aって書いてあったのに

つまりどこへ行けばいいのかまったくわからない

高校へ入って間もない上に情報が一切ない「活動部」を探すことは難しい

「高也・・・」

「ん？」

「活動部ってどこにあると思う？」

「そんなのポスターに・・・ない!？」

???? side

「部長、今日はどうします？」

「昨日はサッカーで疲れましたからね・・・久しぶりに何か作ってみましょうか。新入生が驚くようなものを作りましょう。第一印象は大事ですからね。丁度、科学部の人達は新入生歓迎会でカラオケへ行ってるはずなので、科学室は誰もいません。」

「流石部長、情報網はんばじゃないっすね」

「では、科学室へ行きましょう」

俺達（城島、高也） side

「カレンダー」

「だ・・ダイス」

「スイス」

「す・・スライス」

「スタンス」

「す・・スコークス」

「ステータス」

「す・・スフィinks」

「む・・・スライドガラス」

「す・・ステンドグラス」

俺達はおしゃべり定番ゲーム「しりとり」しながら活動部を探していた

ていうか何この「す」無双

「スパイス」

「す・・あっ」

「「あ」じゃなくて「す」だぞ」

「違うって、あれって科学部？」

俺達は知らない内に科学室へ来ていた

適当に歩いてただけなんだけど

「俺理科好きだからちよつと見てきていい？」

「じゃあ、俺もいっしょに見るかな」

高也が理科好き、というより実験好きなのは知ってる

「あっ、焦げちゃったよ」

「どんまいっ、こっちは上手くいったぜ」

「ちよつとソレとつてくれる？」

「あれ？量間違えたかもな・・・」

科学室の中からは様々な声が聞こえてくる

見るからに・・・これは「科学部」？以前に科学室で実験してるから確定かな

「すげー・・・中学とは全然違う」

高也は興味津津に実験を見ている。楽しそうでなにより

「ん？」

誰かが俺達に気付いた

「君達は、新人生ですか？」

「あ、すいません。新人生です」

「謝らなくても大丈夫ですよ。部活の見学ですか？」

「そうです」

「よかったら中で見学してはどうですか？」

「いいんですか？」

「どうぞ、廊下から見るとより中で見た方が見やすいですからね」

見た目、雰囲気がいイ人っぽい人が中に入っていていいって言うてくれた

たしかに中から見た方が見やすいし

「城島・・・ちょっと科学部って主に何するところか聞いてくる」

「おう、わかった」

この様子だと高也は科学部に入りそうだな・・・俺も科学部入ろっかなー

「あの・・・」

「？なんですか」

「科学部って主な活動はどんなのですか？」

「ああ、うちは科学部ではありませんよ」

「「!?!」」

俺と高也は驚いた

だって科学室で実験してる㍥科学部しか当てはまらないし・・・

「うちは活動部で、僕は部長の宮野です」

俺と高也はさらに驚いた

そして目当てだった「活動部」を見つけることができた

科学部？（後書き）

感想、意見お願いします

入部

遂に活動部を見つけたことができた俺達

それより活動部の内容が気になる

「宮野さん、活動部って何する部活なんですか？」

「そうですね・・・基本的に僕達は楽しく遊んでいます」

「遊ぶ・・・？」

「例えば、昨日はみんなでサッカーしましたし、その前はみんなで映画へ行きました。やっぱりドラ○もんはおもしろいですね」

ド○えもん見に行ったのかよっ

「高也、どうする？」

「どうするって、何が？」

「入部するかどうかだよ。お前の好きな実験とかあるらしいし」

「部活決めるの今日までだからね・・・入部しちゃう？」

「そうするか」

「宮野さん」

「はい、なんですか？」

「俺達入部したいんですけど、いいですか？」

「もちろんですよ。歓迎します」

俺達は「活動部」へ入部することに決めた

「それでは、名前を教えてくださいませんか？」

「俺は城島 綾人っています」

「俺は高也 翔です」

「城島くんに、高也くんですね。これからよろしくお願いします」

「「こちらこそよろしくお願いします」」

「今ダイナマイトを作つてるところなんですが、城島くんと高也くんも参加しますか？」

「「ダイナマイト!？」」

まさかこの実験?がダイナマイト作りだったとは・・・

「ダイナマイトといっても、爆発するものではなく、音と光を出すものですよ。ですので、ものが壊れるなどということはありません」
もの壊れるっていうかそれでも危ないんじゃない・・・

「作ったダイナマイトはどうするんですか？」

「生徒会から逃げるためのものです（笑）」

「はい!？」

「生徒会長が僕の知り合いで超真面目な人なんですよ。それで「こんな部活動は高校にふさわしくない」とかで活動部を認めてないって感じになってるんです。あ、顧問の先生はちゃんといいますから安心してください」

宮野さんって見た目とは裏腹に結構過激な人なんだな・・・

けど俺達はそういうスリルあることは結構好きなんだよな

俺達もダイナマイト作りに参加することにした

思ったより難しい、量を間違えたら大変なことになる・・・

なのになんで高也はあんな早く量測れるんだ

お前は量計り屋か

「あ、そうそう。明日は3－Aでミーティングがあるので、放課後は其方へ来てください。ミーティングといっても多分自己紹介だけですけどね」

「わかりました」

キーンコーンカーンコーン

「今日はこれで活動終了です。おつかれさまでした」

「「「おつかれ（っす）」」」

＼帰り道＼

「高也、活動部どうだった？」

「実験できて楽しかったよ」

「俺は実験中爆発しそうで結構ハラハラだった」

「まだわからないけど活動部って結構楽しそうだね」

「そうだな」

俺達は「活動部」のことはよくわからない

つまりまだおもしろそうなのは山ほどある

これからが楽しみだ

「あ」

「どうした？高也」

「入部届け出した・・・？」

「出してない・・・あ」

俺達は学校へ向かって全力で走りだした

入部（後書き）

「活動部」

部長…宮野（3年）

副部…??（3年）

顧問…??

部員…3年生1?人

2年生1?人

1年生1?人（内2人1城島、高也）

活動内容…不特定

活動場所…不特定

活動日時…水、土、日は休み、時間は基本下校時間まで

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0083u/>

活動部

2011年10月8日18時35分発行